

書 評

- グレゴワール・シャマユー (Grégoire Chamayou) 著, 加納由起子 訳
『人体実験の哲学』…………… 宮武 光吉 394
- 吉元昭治 著『図説 道教医学——東洋思想の淵源を学ぶ——』…………… 横手 裕 395
- 謝 心範 著『養生の智慧と気の思想——貝原益軒に至る未病の文化を読む——』
…………… 光平 有希 397
- Wolfgang Michel-Zaitsu 著 „Traditionelle Medizin in Japan
– Von der Frühzeit bis zur Gegenwart“ …………… 梶谷 真司 398
- 投稿規定 …………… 400
- 日本医史学会への寄付金について…………… 402
- 編集後記 …………… 403

《本号の表紙絵》

流行悪疫退さんの図

(片桐棲龍堂所蔵)

大阪府堺市の片桐棲龍堂薬局所蔵の錦絵。1880(明治13)年。内藤記念くすり博物館発行の『はやり病の錦絵』にも掲載されている。同書解説によれば、「頭はライオン、胴体が虎の怪獣に見立てたコレラを人々が追い立てようとしている。洋服の紳士が石炭酸を噴霧している姿は、石炭酸による消毒の進歩を表わしている。」

図をみると、上の山あいには「温泉」、下を走る蒸気列車には「上等人」と記されている。裕福な人々はコレラを避け、避難しているという意味か、列車のすぐ下にも旅装で逃げようとしている人々がみえる。中段には解説にもある石炭酸を噴霧している紳士とサーベルを佩いた警官らしき人物もみえる。怪物の下には、「支那ヘイカウ」の文字がみえ、怪物に擬せられたコレラが他国へ伝播していることが図の読者にも知られていたことがわかる。

上述の『はやり病の錦絵』には、「茶毘(やきば)混雑の図」(1858(安政5)年)も掲載されており、そこでは、安政のコレラ流行のため江戸の火葬場が大混乱となった様子が描かれている。わずか20年余りで、コレラに対する人々の認識は大きく変わり、「流行悪疫退さんの図」では文明開化や医療・衛生によって対処できる自信の高まりが描かれていることに驚かされるとともに、温泉に避難できる裕福な人々と避難せずに対処せざるを得ない人々との対比も読み取れることもできよう。

【文献】

内藤記念くすり博物館。くすり博物館収蔵資料集④ はやり病の錦絵。岐阜県：内藤記念くすり博物館、2001

(逢見 憲一)